

2023年度事業計画

【 総務 】委員会 委員長【浅田 素之】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
c	定期表彰	インクルーシブな取り組みを含むセーリング活動の表彰実施	顕著な活動の認知度向上	表彰式の開催	2024年1月	
g	ガバナンスコード対応	規程・基準の継続的見直し	JSAFの運営、実施体制のルールに関する整備	ガバナンスコード、規程、基準等	通年	
	レース等行事の公認・後援検討	JSAF公認・後援レースの検討実施 (レースマネジメント委員会と共同)	公認・後援レースへの保険付保等、安全確保	公認・後援レースの開催	通年	
h	コンプライアンス研修	会員、特に各団体リーダー向けの研修実施	会員全体のコンプライアンス意識向上	研修の開催	2024年2月	

【 財政 】委員会 委員長【 松田 一隆 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
h, i	適切な支払・立替手続きの遂行	・各専門委員会から日々上がってくる支払 ・発注の申請の内容確認。 ・事務局と協力して支払、会計処理等に関する事務手続きの簡素化と改善。 ・源泉徴収関係の確認、添付された証憑の妥当性についての検証を継続。	公益財団法人に期待されるコントローラシップの維持・向上	各種外部検査における指摘ゼロ	通年	
	適切な予算執行と会計報告の推進と管理	・事務局のほか関連する専門委員会とも連携し、予算・決算に関し、評議会 ・理事会等への報告の適時性と透明性の確保を向上させる。 ・年間方針や重点施策に基づき各委員会が推進する事業計画の進捗に応じた円滑な予算執行に努める。 ・足元の収支状況についての情報提供を促進。	事業計画に基づいた事業・予算の執行状況のモニタリング強化	評議会・理事会向け報告	通年	
	健全な財政基盤の確保	・JSAFとしての経営戦略に基づき、会費・寄付金 ・賛助金等の収入ソース拡大の検討がなされる中、事務局及び総務委員会等関連する専門委員会とも連携し、財政面での管理体制の整備を進める。	公益財団法人に期待されるコントローラシップの維持・向上	管理ツール整備	通年	
	会計経理業務のガバナンス強化	・事務局における経理会計事務の体制強化を支援し、帳票類の整備を漸進させる。 ・公益財団法人に期待される会計・経理態勢の理解に努め、態勢整備を行う。	公益財団法人に期待されるコントローラシップの維持・向上	試算表、マニュアル類等の整備	通年	
	消費税インボイス制度対応	・消費税インボイス制度への移行に伴い、JSAFとしての対応を事務局と協力のうえ整理のうえ、適時に準備を行う。	税制変更への適切な対応	取引先ごとの手続き完了	2023年9月中	

【 事業開発 】委員会 委員長【 平松 隆 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
g	JSAF SHOP運営業務	JSAF SHOPの日常業務に対する報酬の支払い化	ボランティアの域を超えた日常業務の担い手を有償化することにより確保し、人材難を解消する。	業務を担う人材確保の可否	年間	
	JSAF SHOP販売商品の拡充	魅力ある新商品の開発	限られたマーケット（JSAF会員+セーリングファン）に対応した新規商品を随時導入し、売り上げアップを目指す。	年間売り上げ目標¥3,500,000	年間	
	企業とのコラボ製品の製作	45RPM社以外の新規コラボ先企業の開発	確実に利益の見込まれる提携企業開発により、安定した利益を確保する。	新規提携企業1社を目標とする	年間	

【 広報 】委員会 委員長【 森 融果 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
基	00. JSAFホームページ	サーバー、ホームページの保守管理	サーバー、ホームページの保守管理	NA	継続	
本	01. 会員ページ	会員ページのバージョンアップ版テンプレート導入	JSAF会員・委員会の使いやすさ向上	会員がスマホで操作が可能になる	2023年12月頃	
的	(02. ブランディングページ	JSAF/Sailingブランディングページのデザイン、動線改善	認知をパーセプション引き上げる	オウンドメディアへの流入	2023年3月	
に	(03. オウンドメディア	ステークホルダー・ファン向け、理解・共感を深めるためのコンテンツ	パーセプション深化、ビヘイバーに引き上げる	エンゲージメント、スポンサーシップの獲得	2023年3月	
I	04. 五輪プラットフォーム	ステークホルダー・ファン・マスメディア向け、五輪情報への入り口	メディア露出増、選手への共感・応援の獲得	メディア露出・支援・応援の獲得	2023年6月	
II	05. Start Sailingプラットフォーム	セーリングを体験してみようと思った人向け情報プラットフォーム	興味からDOへのスムーズな移行を促す	体験会参加者	2023年12月頃	
実	06. メールマガジン	JSAF会員及びメルマガ登録した人への、プッシュ通知	認知・パーセプション引き上げを図る	HTML化したら、開封率	2023年4月	
現	07. SNS	JSAF公式SNSからの情報発信	NF情報発信及び、またポテンシャルファンへのリーチ可能性	フォロワー数	継続	
の	08. スポーツメディア	スポーツメディアのニュース掲載	アセット価値の高い露出	露出数	継続	
役	09. その他外部メディア	パブリシティー等の掲載	アセット価値の高い戦略的露出	露出数	2023年1月	
割	10. イベント、タイアップ	ポートショー以外の対面イベントや他ブランドタイアップの模索	ステークホルダー・ファン獲得の手段	NA	未定	
g	11. Digital Asset Library	写真・動画のデジタルアセットの一元管理	ブランド管理	NA	2023年中	
	12. 委員会運営	上述事業の遂行人員の確保など	無理のない委員会運営	NA	継続	

【 国際 】委員会 委員長【 堀川 郁子 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
g	国際機関ポスト獲得・国際会議派遣	・ World Sailingのミッドイヤー会議、年次会議及び臨時会議等に委員等を派遣する。 ・ ASAF（アジアセーリング連盟）の年次総会及び臨時総会に委員等を派遣する。	・ World SailingやASAFの参加を通して、セーリング競技に関する情報収集及び情報発信 ・ World Sailingにおける日本のプレゼンス向上	・ 委員の派遣 ・ WSでの年次会議及び臨時会議等における議題の把握 ・ 上記議題に関するJSAFその他国内のステークホルダーのポジション確認・生成・発信	2023年11月	
	スポーツ外交	ICAの民間連携や外務省SFTを活用し、コーチ派遣又は選手、コーチ招聘を行う。	・ セーリング競技の普及及び普及活動を通しての関係性構築	・ 助成金獲得 ・ コーチ派遣または選手、コーチの招聘の実施	未定	

【 環境 】委員会 委員長【 大垣 俊朗 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
b	サステナビリティキャンペーン (全日本大会へのサステナビリティ補助金事業)	全日本大会へのサステナビリティ補助金事業	・サステナビリティ活動の実践 ・SNS等での発信による外部への訴求 ・スポンサー企業の支援継続および新規スポンサー企業の開拓	・SNSの発信数 (シェア数、いいね数合計2,000件)	通年	
	サステナビリティキャンペーン(上記以外の補助金事業)	サステナビリティに関する個人・団体の取組 (学びや意識・行動変容・共創に向けたトライアル支援)への補助金事業	・サステナビリティへの意識・行動変容に向けた、他団体へのナレッジになるような取組を蓄積・発信するために、トライアル事業を支援	・助成数5件	通年	
	サステナビリティイベント企画、参加	サステナビリティに関するイベント等での展示・講習	・海洋環境の現状の把握 ・サステナビリティの意識の普及、向上 ・広くセーラー以外の一般市民も巻き込みサステナビリティを切り口にセーリングの普及にも寄与。	・参加数5件	通年	
	サステナビリティ啓蒙ツールの拡充	加盟団体等で活用できるような啓蒙ツールの整備・共有	・サステナビリティ活動の普及、支援、活性化	・加盟団体活用数30件 (普及指導委員会事業と連携)	通年	
	使い古したセールの有効活用 (Workshop、バッグ製作販売)	使い古したセールによるエコバック制作Workshop	・環境意識の向上 ・脱炭素化に寄与 ・JSAFのブランド化 ・広く一般市民への普及	・ワークショップ実施数5件	通年	
	サステナビリティインパクトに関する調査	セーラー個人・大会のサステナビリティ貢献 (プラスチック、CO2削減量)の調査・検証(外部機関連携含む)	・サステナビリティ貢献の評価・可視化 ・サステナビリティ活動の促進	・評価方式の策定 ・大会のインパクト評価トライアル	通年	
	ナレッジの蓄積・展開	加盟団体のアンケートによる現状・課題分析、先進事例 調査・展開	・サステナビリティへの加盟団体等の取組の普及・定着	・事例収集・発信数30件	通年	
	サステナビリティ活動の情報発信	加盟団体の取り組み事例に関する映像制作・発信	・サステナビリティ活動の促進 ・スポンサーへの訴求・獲得	・映像ビュー1,000PV	通年	
	アクティベーション協働先の発掘事業	アクティベーション協働先の調査・交渉	・スポンサーへの訴求・獲得 ・アクティベーションメニューの開発	・アクティベーションメニュー開発1件	通年	
	スポンサー向け商品開発事業	サステナビリティに関するスポンサーメリットの開発	・スポンサーへの訴求・獲得	・スポンサーメリットの開発1件	通年	

【 レディース 】委員会 委員長【 長田 美香子 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
e	チャイルドルーム開設	未就学児をもつ選手・役員・指導者が安心してレースに参加できるようお子さんを預かることで支援する	セーリングスタイルの多様性を守り、生涯スポーツに繋げる	レースへの参加率及び利用者数	2023年6月	
					2023年9月	
					2023年10月	
c	ハンザ体験試乗会	初心者のためにハンザ体験試乗会を実施し、セーリングやパラセーラーとの交流を楽しんで貰う	新たなセーリングファン層の拡大 インクルーシブなセーリングの実現	他水域への拡大	2023年5月	
e	情報交換会	女性が、生涯を通してセーリングに親しめる具体的な方策を話し合う	情報交換を通して、課題を共有したり、解決法を探ったりする	参加者数及び内容の発信	2023年12月	
	生理用品配布	協力スポンサーを見つけ、その提供品を配布することを目的に活動する	女性を取り巻く生理の貧困の改善	スポンサーの獲得実績	通年	
e,g	マッチングシステム構築	卒業予定の学生の実態を把握し、そのニーズに応じた関係団体とのマッチングを支援する	各県連や艇種別団体とのマッチングを図るシステムを構築することで、主に大学卒業予定の学生が、継続してセーリングに親しめるようにする	マッチングの実績数	通年	
g,h	女性リーダー・コーチの育成	女性指導者育成、ジェンダー平等やインクルーシブスポーツ等の研修会・講演会の案内に努め、参加を促す	女性参画の拡大、女性のスポーツ環境作り、女性指導者・女性役員の育成を目指す	参加実績	通年	
c,e,h	女性レースへの支援	全日本女子インカレや伊藤園カップなど女子中心のレースをいろいろな側面からサポートする	女性がレースに参加し易くなるようサポートすることで、女性のセーリングファンを増やす	アンケート等を実施し、満足度を調査する	通年	

【 アスリート 】委員会 委員長【 関 一人 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
J,L,O	トップ選手のテクニック指導会	オンラインでの講習会の実施	選手の競技力向上	参加者50人程度が目標	2023年6月	
J,L,O	トップ選手からの意見吸い上げ	各種目、カテゴリーのトップ選手の意見を吸い上げ、組織力向上につなげる	セーリング界の意識向上、組織改革	アスリートファーストの円滑なレース	2023年10月	
C	e-sailing 大会、イベントへの参加	普段接する事のないカテゴリーの方々とレースを行う。	NTの浸透、参加者から応援して頂ける選手になる	参加者から好評なメッセージをもらう	不定期	

【海 その愛海 その愛基金 海洋環境グリーンプロジェクト推進】委員会 委員長【加山 雄三】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価

【 ルール 】委員会 委員長【 増田 開 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
a,d,e,f	事業1) ルール関連資料の翻訳・発行	競技規則であるRRSとWorld Sailing規程の一部、World Sailingの発行する試行規則や、競技規則の公式解釈であるケースブック、コールブックと規則42解釈、Q&Aとラビッドレスポンスコールなど、World Sailingの発行するルール関連資料とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。	セーリング競技の根幹である競技規則と規則解釈を日本語訳して国内セーラーに提供	World sailingによる公開から日本語訳公開までの期間、翻訳の正確さ、日本語としての分かり易さ。	通年	
f		World Sailing発行のジャッジ/アンパイア向けマニュアル等とその追加・修正を都度、日本語訳して展開する。	国内ジャッジ/アンパイアのレベルの維持・向上	World sailingによる公開から日本語訳公開までの期間、翻訳の正確さ、日本語としての分かり易さ。	通年	
f, l	事業2) 国際ジャッジ・アンパイアの育成	・国内IJ/IU候補者に海外レース等を経験させるための機会獲得支援と渡航費補助。 ・アジア諸国のIJ/IU候補者のJSAFが主催する国際大会への来日支援のため渡航費補助。 ・国内で開催される国際大会において、主催団体からJSAFによるジャッジ・アンパイアの推薦枠が与えられた場合に、国内IJ/IU候補者から選考して推薦。 ・JSAFからWorld Sailingに推薦するIJ/IU候補推薦者選定のためのIJ/IU候補推薦委員会の開催。 ・JSAFがノミネートして選任されたWorld Sailing の委員でもある委員2名をWorld Sailing年次総会に派遣。	・日本人IJ/IUの継続的輩出によるJSAFの情報収集力の維持・向上、JSAFとしてのセーリング界への貢献、JSAFの世界での地位向上 ・特にアジア諸国など海外のジャッジ/アンパイア育成への貢献、JSAFの世界での地位向上 ・World Sailingの意思決定と活動に対するJSAFとしての貢献、JSAFの世界での地位向上	日本人IJ/IUの新規認定1人/8年	通年	
f	事業3) ナショナル・ジャッジ/アンパイア講習会の開催	A級ジャッジ認定講習会を国体開催予定地など2-3箇所で開催。	ナショナルジャッジの養成、国内レースの質の維持・向上	新規認定10名	未定	
		・アンパイア認定講習会の開催：海上実技研修を必要とするためアンパイア制大会の機会を利用して1-2回開催。 ・アンパイア更新講習会の開催：新型コロナ等影響に対応した未更新者対象の追加開催。	ナショナルアンパイアの養成、国内レースの質の維持・向上	更新2名、新規認定1名	未定	
		・ジャッジ・クリニックの開催：オンライン5回程度、オンライン3回程度開催。 ・B級ジャッジのためのステップアップ・クリニックの開催：全国10箇所程度で開催。	ナショナルジャッジの養成、国内レースの質の維持・向上	受講者数200名	2024年1～3月	

d, f	事業4) ナショナルB級ジャッジ認定	・B級ジャッジ認定講習会・試験を実施する加盟団体、特別加盟団体に、試験問題と講習用補助資料を提供。	初級ジャッジを養成する加盟団体・特別加盟団体の支援、国内レースの質の維持・向上	受講者数200名	通年	
a	事業5) 競技規則の普及	・認定証発行やデータベース入力など認定管理業務 セーリングのルール（ゲーム）を紹介するプロモーションビデオなどの作成・公開	愛好者（非会員含む）のセーリング・ルールへの興味の醸成	コンテンツの完成・公開	通年	
a,e,f,k		ルール検定制度の検討、試験問題の作成や受験システムの開発、運用開始	・ルールの知識を習得したことが個人で確認できる仕組みとして「試験・検定」形式を導入する。 ・さらに、ステップアップしているとの実感が得られるように段階を持たせることとする。	検定制度の完成・運用開始	通年	
d,e,o		指導者・選手向けルール講習会の開催 段階別のルール講習の実施（主にオンライン） 加盟団体等の要望に応じたルール講習の実施（主に対面） 外洋レース関係者向けのルール講習会・意見交換会等の実施	・知識習得の場の提供（ルール検定の補完） ・上記のルール検定のレベルに応じた段階別の講習会を実施することにより、ステップアップのために必要な知識習得の場を提供する。	受講者数400名	2024年1～3月	
d,o		外洋特別規則等の外洋艇レース関係規則の周知	・外洋艇レースのルール面からの質の向上 ・外洋艇レースへの理解促進 ・外洋艇レースにおける安全対策意識の啓発	解説資料等	通年	
a,e,g	事業6) 指導者育成支援	日本スポーツ協会の認定する指導者資格の更新条件であるJSAF主催講習会等としてルール委員会の主催する講習会を提供し、日本スポーツ協会データベースへの登録業務を代行することで、普及指導者委員会の進める事業を支援する。	・普及指導者委員会が進める指導者育成への貢献	対象講習会数30回	通年	
a,d,o	事業7) アンパイア制レース普及支援	・加盟団体・特別加盟団体への働きかけによりアンパイア制レースの計画を促すと共に、アンパイア制大会実施のためのノウハウの提供やアンパイアの紹介などの支援を行う。新たにアンパイア制レース実施大会の継続的開催を計画する加盟団体・特別加盟団体を対象にアンパイアを派遣して派遣費用を補助する。 ・アンパイア・クリニックの開催：選手・アンパイアを対象としたアンパイア制レースのクリニックを開催する。	世界のアンパイア制レース拡大の潮流を捉え、将来にわたって国内でのセーリング・スポーツを振興するため、加盟団体・特別加盟団体とのアンパイア制レース推進のための中長期的なビジョンの共有と連携体制の構築を図る。	アンパイア制大会数増加1大会／4年	通年	
a,d,o	事業8) 外洋艇レース普及支援	ローカルクラブレースサポートキャラバン：外洋クラブ（非加盟団体）のクルーザーレースにおいて、標準レースをJSAFからの派遣資格者が助言協力して企画実施したレースを題材に講習、意見交換を行う。併せて、①登録セールナンバーのPR、②ローカルクラブレース現状調査、③JSAF活動の周知等も行う。RMC等関連委員会と連携し、2か所で試行実施。	・外洋クラブ（非加盟団体）を対象とした、フォーマルなレースの啓発、ルール意識向上（安全管理）、JSAFとの親和性醸成。 ・試行実証を踏まえた継続事業化	実施報告書	未定	
f	事業9) カイトボード大会へのジャッジ派遣	カイトボード大会主催団体に働きかけ、ナショナル・ジャッジで構成するプロテスト委員会の任命を促し、ルール委員を大会ジャッジとして派遣する。	・カイトボードに対応できるジャッジスキルをJSAFが獲得する ・カイトボードに対応できるジャッジ養成に向けた計画の立案 ・大会主催団体を含むカイトコミュニティへのフォーマルなレースの啓発	実施報告書	未定	

g,h	事業10) NNU実績システム開発	ジャッジやアンパイアの大会参加登録・記録機能、レガッタレポート登録機能、OAによる大会ジャッジ／アンパイア候補抽出・募集機能、これらの収集された情報を参照・抽出できる機能を持ったシステムを構築する。	ジャッジ・アンパイア・大会OAなどの利便性の向上や大会における大会PC等選出の透明性の確保を図るとともに、ジャッジ・アンパイアの課題を把握し、JSAFルール委員会の諸事業に反映する。	新システム試験運用開始	2023年10月	
f	事業11) IUセミナーの招致	World Sailingが実施する国際アンパイア認定のためのセミナーを招致して国内で開催する。 前回招致はFY2013年：受講者12名（うち日本人3名）、試験合格5名（うち日本人2名）、海上アセスメント合格2名（うち日本人0名）。	・日本人、及び、特にアジア諸国など海外のIUの養成 ・World Sailingおよびセーリング界へのJSAFとしての貢献、JSAFの世界での地位向上	受講者数枠（8～12名、World Sailingが決定）の充足 海外からの受講者数4名以上	2024年3月	

【 レースマネジメント 】委員会 委員長【 大庭 秀夫 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
f	レースオフィサー・セミナー（認定講習会）	レースオフィサー・セミナー（認定講習・認定試験）の開催	レースオフィサーの認定を通した、国内大会の安全確保と質の維持・向上	NRO：20人、ARO：60人、LRO：100人	2023年 5 月～2024年2月	
	レースマネジメント・クリニック	レースマネジメント・クリニック（NRO更新のための義務講習）の開催	クリニック（講習）の開催をととして、レースオフィシャルズのスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図る。	NRO：75人（NROの概ね1/2）	2023年 5 月～2024年2月	
	セミナー・クリニックのインストラクター打合せ	セミナー・クリニックのインストラクター打合会の開催	JSAFが主催するセミナー・クリニックを全国均質に行うために、教材・試験問題・海上実技アセスメントについてのインストラクター打合会を行う。	インストラクター候補者：6人 レースマネジメント委員会：4人	2023年5月	
	マークレイヤー・クリニック	マークレイヤー・クリニックの開催	レースマークの設置・変更、レースターゲットタイムを意識したレグ変更などのスキルアップのための講習会をJSAF主催行事として開催し、講師を派遣する。（全国 3会場）	3会場（東・中・西）	2023年 5 月～2023年11月	
	国体の安全性アップ	国体における安全規定を作成し、レースのレベルアップを図る	ナショナル・スポーツフェスティバルとして、参加都道府県の支援艇艇と連携し安全体制を強化する。ひいては、大会のレベルアップを目指す。	国体委員会、ルール委員会と連携し、支援者艇の安全規程及びSIの作成をサポートする。	2023年9月迄	
f/g/h/i	外洋合同委員会会議	外洋合同委員会会議への参加	外洋系ルール・計測・安全に関する情報を専門委員会で共有する	参加者40名	2023年2月	
g	長距離外洋レース運営協力	外洋常任委員会主催レースへの運営協力	管理水面で行われないレースに関する情報を整理し、次世代につなげる	外洋常任委員会主催レースへの運営参加	2023年4月	
f	IROクリニック	WSのIRO講師によるレースマネジメント講習会	・IRO資格取得に向けて、レースマネジメントの知識を得る ・WSから派遣される講師との情報交換	参加者10名	2024年1月	
	IROセミナー	IRO資格取得のための講習と認定試験	・IRO認定に必要な講義と試験を行い、現在日本に2名しかいないIROの増強を図る	8 割の合格者	2024年2月	
	国内国際レース調整の実施	・国内国際レース レースオフィサー派遣 ・国内国際レース レースマネジメントレベル維持	・ROレースマネジメント経験値向上		2023年6月	
	公認・後援審査	公認・後援する大会開催に関する審査	公認・後援等が規則に則り適正に行われているかを審査する。		2023年4月～2024年3月	
h	全国レースマネジメント委員会	年2回の委員会の開催	レースマネジメント委員会の事業実施に係る方策の協議・報告	レースマネジメント委員の参加	12月、3月	

【 ワンデザインクラス計測 】委員会 委員長【 中村 和哉 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
g	委員会基本活動	・ 定例委員会の開催、および関係会議への出席、HP掲載内容の管理 ・ クラス協会との業務委託契約の締結 ・ 日本セーリング連盟公式計測員規程 改定案の整備 ・ 委員会活動継続のための人材発掘と育成	・ 上記事業の推進を管理し推進すると共に、委員会全体の課題に対し て取り組む	遅滞なく業務を実施する	通年	
h	規則管理	・ IMマニュアルおよび計測に関連したWS文書を翻訳し提供することにより計測員の資質向上を目指す。 ・ 競技者を中心としたクリニックを開催する。 ・ ERSの翻訳（修正、更新）	・ WSから発行される計測関連の情報を提供する	遅滞なく情報提供を行う	通年	
f	公式計測員管理	・ 各クラス協会の新規クラス公式計測員の育成事業支援 ・ ERSの講習会用のテキストの見直しと作成 ・ ERSの講習会を実施する ・ 艇種別加盟団体において公式計測委員の設置されていないクラスを支援する	・ 公平で公正な計測を確保するため公式計測員の資質向上・養成する	複数クラスでの講習会の実施	通年	
	IM養成支援	・ IMセミナーの企画、実施 ・ IM推薦、IM候補者への指導・支援 ・ WSの情報を翻訳し提供する ・ 国際レベルの計測技術を維持する	・ IMの養成と計測技術の向上を支援する	IMの養成人数 2人	未定	
	IHC管理	・ セールメーカーでのIHCの運用を監査する ・ セールメーカーの要請に基づくIHCステッカーの手配	・ IHC制度の管理と運用を行う	WSの求める品質の維持の達成	通年	
	国体計測	・ 国体等の大会計測の実施を主催団体と調整し実施の支援を行う	・ 国体等における大会計測の精度を管理し公平公正な計測を行う	国体、リハーサル大会での大会計測の実施	2023年9～10月	

【 医事・科学 】委員会 委員長【 高橋 正哲 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
m	セーリングスポーツの普及・発展（一般への認知向上）	普及指導委員会、国体委員会、オリンピック強化委員会との連携	医事科学的知識、意見の提供	連携委員会x回数	通年	
	社会との連携	ワールドセーリング医事委員会との連携（メディカル・インフォメーション）	WhatsAppにより、各ナショナルメディカルチームと連携	メール連携x件数	通年	
	トレーナー部会	合宿・大会・HOPE事業等におけるトレーナーサポート	医事科学委員会各専門部会および小委員会と連携し円滑な選手サポートを行う	適宜	通年	
		トレーナー部会連絡会議	情報共有および連携強化	トレーナー部会部員	2023年11月	
i	セーフティセーリングの推進（セーリングの普及）	JSPOアスレティックトレーナー代表者連絡会議	JSPO加盟団体トレーナーと情報共有および連携	各都道府県および中央競技団体より各代表参加1名（総数約120名）	2023年12月	
		選手の健康管理、外傷予防に関する相談への対応	疾病、外傷の診断、治療方針	相談x件数	通年	
		競技会における安全体制の指導、助言	医事科学委員の派遣、LINEグループの助言	派遣、助言x回数	通年	
		セーリングチャレンジカップ浜名湖参加	医師の派遣	派遣医師x人数	3月19－21日	
		国体開催時における疾病、外傷の助言	LINEグループを使って	助言回数	10月	
		安全講習及び公認コーチ講習に講師の派遣	医事科学知識の向上	講師派遣延人数	通年	

i	セーラーの育成と強化	選手健康管理、外傷に対する相談への医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養師、トレーナーによる対応。LINE、メールによる対応。	疾病、外傷の診断、治療方針	相談x件数	通年	
		海外派遣選手に対する医学的指導、および選手、コーチからの相談・要望に対するLINE、メールによる対応			通年	
i	アンチドーピング対策	ドーピング検査に対するNAとして参加	NF-Repを派遣し検査に立ち会い、選手の権利を守るとともに円滑な実施に協力する	予定通りの検査の実施	競技会	
		選手、コーチ、監督、指導者へのアンチ・ドーピングの啓蒙	アンチ・ドーピングの指導・啓蒙	講習回数x参加人数	通年	
		国体監督者会議におけるアンチドーピングの講習	AD小委員会からの講師派遣	実施の有無	10月	
h	組織体制の整備・強化	委員の増員、委員会組織の見直し	委員会内に専門部会（医科、歯科、薬剤、看護、栄養、トレーナー、アンチドーピング）の充実	専門部会数x部員数	通年	
		医事科学委員会の開催（年2回、ハイブリッド開催予定）	医事科学委員の連携、新委員の任命	委員会開催回数x参加人数	5月、11月	
	公認医学・パラメディカル資格の推薦、取得の推進	公認スポーツドクター、公認スポーツデンティスト、公認スポーツファーマシスト、公認スポーツ栄養師、公認アスレチックトレーナー養成講習会受講のJ-SPOへの推薦および更新の手続き	委員の専門資格の取得	各資格x推薦人数	2023年3、4月	

【 eSailing 】委員会 委員長【 尾形 依子 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
ace	Steering the Course （PR・普及事業）	Steering the Course期間にVRI紹介と体験会	繋がり続けられる環境の紹介	参加者50名	2022年5月	
	オープンエントリー練習会 （PR・普及事業）	オープンエントリー練習会（週1回 20:00～3レース）	定期的な日本のプライベートレースの場の提供	1R：最大19エントリー x 3	通年	
e	eSailing講習会・体験会 （PR・普及事業）	eSailing講習会・体験会を通じeSailing活用方法の紹介	指導方法ツールとしての紹介	参加者50名		
	Jr大会の開催 （PR・普及事業）	Jr大会の開催 高校生以下の大会開催	eSailingの大会参加方法等ツール紹介と競技力向上	参加者50名		
o	全日本（Japan cap）開催・運営 （普及・強化事業）	全日本（Japan cap） 開催・運営	日本でのハイレベルな大会開催	参加者60名	2023年8月	
	ネーションズカップ支援 （普及・強化事業）	ネーションズカップ支援・選手の活躍配信、紹介によるPRとネーションズカップにNIとしての手続	世界大会での活躍紹介と活動支援	ベスト8以上を目指す	2023年10月	
g	eSailing大会運営スキル拡大 （普及・次世代への引継ぎ）	運営人員増員・運営スキル拡大、継承	レースセット、リザルト（SAI I RANKS）、オンライン会場（Discordサーバー）での運営について、レースに参戦しながら各ポジション運営者を体験（実践）し新規運営人員拡大を図る		通年	

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
Ⅱ-d,f,i,j	事業1：セーリング競技指導者育成	①指導者講習会プログラム策定/改善	指導者のスキル向上、現場での実践率向上	受講者アンケート評価	-	
		①-1.コーチ2専門科目講習会プログラム改定				
		①-2.コーチ3専門科目講習会プログラム改定				
		①-3.コーチ更新講習会プログラム新規策定				
		②指導者講習会の開催実施	資格保有指導者の維持/拡大	修了者人数 & 次年度指導者資格保有数	-	
		②-1.コーチ2専門科目講習会開催			10月/11月	
		②-2.コーチ3専門科目講習会開催			10月/11月	
		②-3.コーチ更新講習会開催			未定	
		③-1.コーチ2/3共通科目講習会へのコーチデベロッパー派遣	コーチデベロッパーのスキル向上	派遣人数 & 派遣回数	6-11月	
		④既存指導者資格保有者の維持	資格保有指導者の維持/拡大	当年度指導者資格保有数	-	
		④-1.資格更新対象者への更新講習受講期限案内		3月/9月		
		④-2.資格保有者リスト管理と会員管理システムへの反映	JSAF会員数の維持拡大	指導者資格保有者の当年度会員数	4-3月	
		④-3.資格保有者の会費支払依頼と登録確認		3-5月		
Ⅲ-m,n		④-4.JOCコーチアカデミー受講者の募集と推薦	指導者、およびTopアスリートのスキル向上	参加人数		
Ⅱ-d,f,i,j		⑤コーチング活動支援のための情報提供	ジュニアユース層のセーラー & 指導者のスキル向上	掲載サイト参照数	-	
	⑤-1.指導者向けコーチング教材の企画開発(中級レベル)	4-6月				
	⑤-2.指導者向けコーチング教材の展開(中級レベル)	6-11月				
Ⅱ-j	事業2：安全情報の管理と普及	⑥安全情報展開	事故数の低減	掲載サイト参照数	-	
		⑥-1.事故/ヒアリハット情報の収集と展開			4-3月	
		⑥-2.レスキュー艇の操船ガイド等の開発（初級レベル）				
		⑥-2.安全備品情報の収集展開			4-3月	
		⑥-2.練習時の危機管理チェックリスト展開と普及			4-3月	
Ⅰ-a,Ⅱ-d,j		⑦バッジテスト事業の推進	資格保有数の拡大	報告による検定実施数と受講者数	-	
	⑦-1.バッジテスト実施状況管理	4-3月				
	⑦-2.バッジテスト認定者管理	4-3月				
	⑦-3.バッジテスト検定者管理	4-6月				
	⑦-4.バッジテストの改定案検討（初級レベル）	4-11月				
Ⅰ-a,Ⅱ-d,e,f	事業3：セーリング活動普及	⑧Start Sailing活動推進	ジュニアセーラーの増加	ジュニア会員数	-	
		⑧-1.加盟団体の普及活動状況把握と参加者への情報展開			4月	
		⑧-2.日本財団「海と日本プロジェクト」企画と応募			6-9月	
Ⅱ-d,f,i,j	事業4：組織体制強化、および活性化支援	⑨JSAF内人材育成による活性化	委員会メンバー参画意欲向上	参画意欲評価	-	
⑨-1.委員会内人材育成と活性化		4-3月				
⑨-2.国際人養成アカデミーへの人材派遣		5-6月				
Ⅰ-a,b,Ⅱ-d		⑨-3.ポートショウ2024へのブース出展			8-3月	

【 国体 】委員会 委員長【 黒川 重男 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
ll.d,e,f	国民体育大会開催事業	・中央競技役員の派遣 ・現地主催団体との調整・協議 ・参加艇・運営艇の安全対策の推進 ・一般の認知・関心の向上に向けた「見える国体・見せる国体」推進 ・開催地でのセーリングスポーツの普及推進	・円滑な国体運営への開催地支援 ・一般市民等への認知度の向上 ・開催地におけるセーリング競技の普及	参加選手、監督数 550人 中央競技役員派遣 30人	2023年10月	
	国民スポーツ大会開催準備支援事業	・円滑な大会運営を目的とした国体委員会開催 ・開催自治体及び県連との調整・協議・指導 ・国スポ開催予定地の中央競技団体正規視察及び指導・助言 ・開催予定地の国スポ開催準備への支援 ・開催予定地の行政・セーリング関係者による国体研修会の開催	・円滑な国スポ開催準備への開催地支援 ・国スポ開催基準に沿った開催地の選定 ・国スポ運営方針に沿った大会品質の確保	国体委員会開催 2回 国体研修会 1回 中央競技団体正規視察 1回	2023年4月 ～2024年3月	
	国民スポーツ大会開催関連事業	セールに貼付する県名・県番号の販売斡旋	・「見える国体」、「見せる国体」の推進		2023年7月～9月	

【 オリンピック強化 】委員会 委員長【 宮本 貴文 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
j /m	強化対象選手(NT, NT-A, シニア強化選手)の海外大会派遣	NT-A,NTを中心とする強化対象選手の海外主要大会(Sailing World Championships, アジア大会、Paris2024テストイベント等)への派遣	Paris2024での入賞、1種目以上のメダル獲得	各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り	
	強化対象選手(NT,NT-A)に対する特化型強化合宿の実施	NT-A,NTの各チームが抱える課題にフォーカスしたチーム特化型の強化合宿を実施		各大会の成績、合宿レポート	別紙のとおり	
	強化対象選手に対するクラス別強化合宿	強化対象選手を対象とした、クラス別の強化合宿を実施	NT/シニア強化選手の知見をHOPE育成選手にインプットする	合宿レポート	別紙のとおり	
k/m	HOPE育成プログラムの計画・実施	HOPE選手を対象とした、セーリングスキル及び人間力の向上を目的としたHOPE育成プログラムを実施	次世代有力選手の継続的な輩出。LA2028を見据えSailing Youth World/Jr. Worldでの金メダル獲得を目標とする	各大会の成績、合宿レポート	1週間～10日/月	
	強化対象選手(HOPE選手)の海外大会派遣	HOPE選手の海外主要大会(Sailing Youth World/Jr. World等)への派遣		各大会の成績、遠征報告書	大会開催日程の通り	
l/m	海外主要大会遠征に向けたサポートチーム	ルール、栄養、トレーナー等のサポートメンバーを選出しチームを結成、複数の海外主要大会に遠征して課題の抽出、フィードバックを実施。メンバーについては公募を実施する	Paris2024本大会を見据えたTeam JAPANの構築	遠征報告書	公募は4月中	
	NTC・各強化拠点との連携強化	HOPE育成プログラムを始め、各種強化合宿の実施において、NTC及び各強化拠点との連携を深める	各自治体の補助金等を活用した各拠点の機材等の充実、各地域における競技普及・認知度向上への貢献、及び各地域の人材活用	合宿レポート、各種報道等	随時	

【 ジュニア・ユースアカデミー 】委員会 委員長【 中村 公俊 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
e	事業1) アカデミーテキストの発行	シーマンシップを啓発するテキストを整備して関係先に配布する。	セーリングスポーツの価値を高める。	発行部数500部	通年	
g	事業2) アカデミーコーチバンクの構築	シーマンシップを啓発するコーチ体制を構築する。	発展的に人的財産の組織化を図る。	派遣実人数10人	通年	
e	事業3) アカデミーコーチの派遣	シーマンシップを啓発するアカデミーコーチを全国に派遣する。	多様性を認め、生涯スポーツとしての道筋をつける。	実施回数10回、参加者数500人	通年	
i	事業4) コーチ研修の開催	コーチ有資格者や指導者向けの研修会を併催する。	指導者を育成し、様々な角度から安全環境を整備する。	参加者数50人	2023年6、11月	

【 キールポート強化 】委員会 委員長【 久保田 悟 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
e	大学対抗&U25ヨットマッチレースの開催支援	大学対抗&U25ヨットマッチレース2024開催に向けた支援	ユース世代のキールポート競技者の維持拡大	参加選手60名、参加ボランティアスタッフ15名	2024年3月	
	キールポートパーク対抗レースの開催支援	地域とヨットクラブを根幹としたキールポートパーク対抗レースの開催支援	キールポートを含むセーリング人口の拡大	セーリングレガッタの開催	未定	
o	英国チームレースへの選手派遣	英国Royal Thames YC主催のグローバルチームレースレガッタ2023への日本代表チーム選考及び参加支援	次期オリンピック競技種目の有力候補であるチームレースの選手強化	3位入賞	2023年9月	
	国際ユースマッチレースへの選手派遣	豪州Royal Prince Alfred YC主催のハーケン国際ユースマッチレース2023への日本代表チーム選考及び参加支援	ユース世代のキールポート競技力の向上	予選突破	2023年11月	

【 国際大会等準備 】委員会 委員長【 中村 隆夫 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
a-o	各種委員会活動支援	オリ強を中心とした各種委員会への資金分配支援	各種委員会の活動活性化	資金分配の実施		
f, j-o	国際大会運営資金マネジメント支援	国際大会の助成金申請と運営資金マネジメント支援	国際規模レース参加及び運営の機会増加、ひいてはセーリングの強化普及	助成金申請の実施		

【 外洋常任 】委員会 委員長【 中澤 信夫 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
a,d,e,i	セールナンバー普及拡大事業	外洋艇のセールナンバーの適用範囲を広げ、組織の拡大強化に資する。	セーリング愛好者を増やし、組織の拡大強化に資する	セールナンバー取得艇数	通年	
		セールナンバー普及拡大に合わせ、各地のヨットクラブや泊地での安全・ルール関係の活動を支援する	全国各地でのセーリングの安全、ルール順守の強化をはかる	開催実績	通年	
f,k,o	オフショアレース支援と世界選手権派遣事業	2032ブリスベン五輪を目指し世界選手権に選手を派遣する。（国内選考レース開催を含む）	2032五輪を狙える選手の育成強化	派遣実績	未定	
		JSAF共同主催の外洋レースを支援し、世界レベルのレース開催と世界で戦える選手を育成する	2032五輪や世界選手権、世界レベルの外洋レースで活躍できる選手を育成していく	開催実績	通年	
		2032ブリスベン五輪での外洋レース復活に向けて多くの外洋レースに、ダブルハンド・デビジョンを設定していく。	World Sailingの2032ブリスベン五輪外洋レース復活に向けての世界戦略と共同歩調をとる	全日本からクラブレースレベルまでのダブルハンドレース開催数	通年	
		オフショアレースのための資格取得、サバイバルトレーニングなどのトレーニング、通信基盤などの整備、促進、実施を進める。	世界レベルの選手育成のためのスキル向上		通年	
g,h	加盟団体・特別加盟団体等との関係強化事業	外洋加盟団体長会議を年2回開催し、意思疎通を強化する	加盟団体との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	9月、1月	
		外洋常任委員会を開催する。（年7回程度）	外洋系各組織との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	年7回程度	
		外洋艇の技術系部門の強化を図るため、外洋合同委員会会議を支援する。	レース運営、ルール、安全、計測等技術的レベルを全国的に向上させていく	会議実績	2月	
		ヨットクラブ、泊地のグループ等との連携	ヨットクラブ等との連絡・連携の強化を図る	連絡実績	通年	
i	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進	外洋艇の安全確保、安全情報の交換	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく		通年	
		ヨットに合わない法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望する	船舶検査、免許制度、通信等をヨットに合うよう改善するための活動	活動実績	通年	
		レースでの安全確保の指導				
		サバイバルトレーニング、医療トレーニングの推進	外洋セーラーの安全確保のためのスキル向上	開催実績	通年	
		万が一のための主催者保険加入	レース主催の安全確保		通年	
b	海洋環境保全普及事業	海その愛基金事業とコラボしての海洋環境保全、普及啓発を進める	海洋環境の状況を調べその保全、状況を子供達や市民に啓発していく	活動実績	通年	

【 外洋計測 】委員会 委員長【 川合 紀行 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
f	計測セミナー	計測セミナーの開催	メジャラーの養成、計測技術の維持・継承	(2023年度は講習なし、ルール変更の伝達のみ)	2024年2月	
	外洋合同会議	外洋合同会議の共同開催	レーティングの規則の周知と運用の標準化	合同委員会での報告の実施	2024年2月	
g	計測機材の管理維持	重量計の利用管理、重量計のキャリブレーション	適正な重量計測を受ける機会の保障	キャリブレーションの実施1回/年	通年	
g,h	外洋計測委員会会議	外洋計測委員会会議の開催	国内での運用上の課題の解決	会議録、各通知文	通年	
o	関連文書作成	レーティングの規則の翻訳、国内の料金表作成	国内での運用の基盤を整える	規則の日本語版、2024年料金表	2023年12月	
	証書申込受付・発行	受付管理表の管理、証書・請求書の発行	公式レーティングによるレース実施の支援	証書発行枚数IRC350枚、ORC50枚	通年	
	TCチェック	TCメンバーによる申告書のチェック・確認作業	証書記載内容の適正化	TCチェック（新規・変更）65件	通年	
	国際会議への参加	コンGRESSへの参加者の派遣	規則の年次更新への対応・意見具申	会議報告書	2023年10月	

【 外洋安全 】委員会 委員長【 平出 篤志 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
事業1) 委員会基本活動						
h	委員会会議	委員会運営および以下事業の実施に関わる議論と方針・行動の策定を行う	OSRへの理解、安全規則の普及促進	議事録	通年	
	ホームページの維持・管理	ホームページにOSR改訂や安全週間およびその他の諸連絡事項を掲載し、維持・管理する	事故防止、安全航行に対する意識の向上	ホームページ	通年	
事業2) 外洋特別規定（Offshore Special Regulations: OSR）普及						
h	1.OSR日本語翻訳版の発行と国内規定制定	・日本語翻訳版の発行 ・国内規定策定	OSRへの理解、安全規則の普及促進	OSR日本語翻訳版	1月・2月	
i	2.OSR解説講習会	OSR解説講習会の実施および講師派遣		受講者数	2月要請に応じて	
	3.OSR解説	SNSなどを利用したOSRの内容解説		SNSフォロワー数	通年	
g	4.OSRのアプリ化検討	OSR販売のアプリ化を検討、アンケート等で利用者ニーズの把握を図る	DX、OSRアクセス簡易化、利用者費用負担減	OSRアプリ購入希望者数	～9月	
事業3) 安全航行啓蒙						
i	1.安全週間	安全週間を春と秋の2回/年設け、忘れがちな点検整備や乗員の訓練等の実施を呼びかける	事故防止、安全航行に対する意識の向上	事故発生件数	4月、10月	
	2.安全講習会への講師派遣	加盟団体からの依頼に応じて安全講習会へ講師を派遣		受講者数	要請に応じて	
	3.安全航行に関わる諸法令の改正のための関係官庁に対する働きかけ	国内未認可の装備品や無線機器などを日本国内でも使用できるように働きかける	セーラーの安全性の向上や活動費用の低減	－	通年	
	4.「全国海難防止強調運動」の実行委員	日本海難防止協会主催の「全国海難防止強調運動」の実行委員を務める	船舶安全航行に関わる情報収集および発信	－	通年	
	5.事故報告書	外洋艇関係の事故数や事故の内容を集計・分析、事故防止や被害の最小化の課題をとりまとめ、必要に応じて委員会/理事会/SNS等で発信	船舶安全航行に関わる情報収集および発信	－	通年	
事業4) 外洋合同委員会会議						
h	外洋合同委員会会議	外洋レースの運営・計測・安全に関わる規則のポイントや改定箇所の解説・共有・議論を合同会議にて実施	外洋レースの全国均一化とレース主催者（加盟団体）のスキル向上	参加者数	2月	

【 通信 】委員会 委員長【 坂口 城治 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
g, h, i, o	海岸局維持事業	既存のJSAF海岸局の運用、収支状況の調査を行い、今後の海岸局のあり方の提言を策定	海岸局の現状を把握し、無線機材の更新の必要性など、今後数年間の運営方針を策定	現状報告書および運営方針計画	通年	
		VHF無線局免許状更新時の海岸局加入証の取り扱い方法について、関連する地方総合通信局と協議し、手順を改善	無線局免許更新時の海岸局加入証更新の促進	海岸局加入証更新実績の比率向上		
		JSAF共同主催の外洋レースの通信環境の整備を支援	世界レベルの外洋レースを運用する通信環境の知見の獲得	開催実績		
g, o	オフショアレース支援事業	JSAF共同主催の外洋レースのレーストラッキング環境の整備を支援	世界レベルの外洋レースを運用するレーストラッキング環境の知見の獲得	開催実績		
		外洋艇の安全確保、プレジャーボート系の無線局との安全情報の交換、海上特殊無線技士免許の啓蒙	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく	活動実績		
		ヨットに合わない法制度の改善を関係省庁・関係機関に働きかける	通信環境をヨットに合うよう改善するための活動			
i, o	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進	海上通信環境の最新情報の取得	メーカーや無線関係団体との関係を構築し、無線環境の進化に対応する準備を行う			

【 アメリカスカップ 】委員会 委員長【 植松 眞 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価

【 ジャパンカップ 】委員会 委員長【 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価

【 障がい者セーリング推進 】委員会 委員長【 高間 信行 】

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	評価
c,n	インクルーシブセーリングFacebookページ拡充	既存インクルーシブセーリングFacebookページのリンク先の情報を充実させる	障がい者セーリングの国内外への周知を一層の拡大	アクセス数3割増=4,000回/年	2023/4/1	
	障がい者セーリング推進委員会ホームページ開設	障がい者セーリング推進委員会ホームページを新障がい者セーリング推進委員会ホームページを新規に作成し公開する	障がい者セーリングの周知および情報集約	アクセス数 1,800回/年	2023/4/1	
f,n	WS主催のPDPへの選手、コーチ派遣	国際大会で同時開催されるPDPへの参加	選手の技量向上、コーチングの上達	選手2人、コーチ1人派遣	8月	
	クラシファイアの育成	国際大会で行われる国際クラシファイア研修への参加	国際クラシファイアの育成	研修への派遣者2人	8月	
c,d,e,n	JSAF公認の全日本選手権、地方大会等開催	東日本大会、西日本大会、全日本大会の実施	地域において、広く参加者を募集し、スポーツの普及や競技技術の向上のために開催する事業	平均参加出場者30人/大会、観覧者数100名/大会	5月、8月、10月	
c,e,i	視覚障害者セーリング体験会実施	視覚障がい者を中心にインクルーシブセーリングの実施	視覚障がい者の単独での社会参加	体験参加者10人/回	未定（2回）	
e,n	障がい者セーラーの強化	強化種目の指定し強化を行う	国際大会での順位向上をはかる。	参加者10人/回	未定（3回）	
n	障がい者セーリングにおける強化推進	日本パラスポーツ協会・JPC加盟分担金	選手の強化		4月	
	国際大会への選手派遣	国際大会への選手派遣	選手の技量向上とモチベーションアップ	選手3人派遣	8月	
e,f,i,n	障がい者セーリングにおける指導者の養成	障がい者セーラーを指導する立場の指導者を集め、トップコーチ及び障がい者指導員から座学と実技を指導する。	障がいの内容に応じて、セーリング技術指導、コンディショニング等でのサポート	参加人数 15人/回	6月、10月	
d,e	インクルーシブセーリングの普及活動	障がい者セーリング体験会を開催	障がい者セーリングの普及	全国3ヶ所（参加人数30人/回）	未定（3回）	